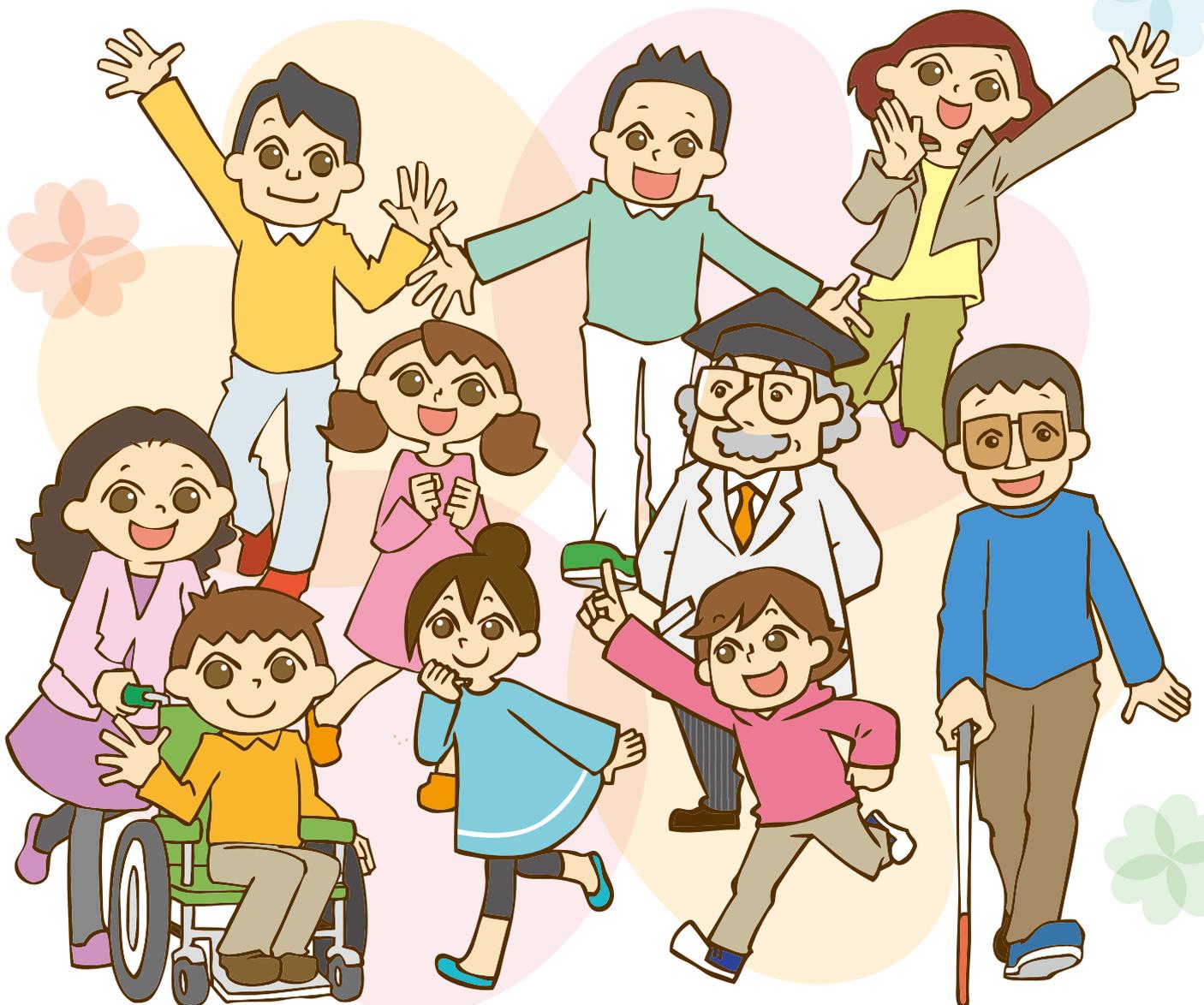


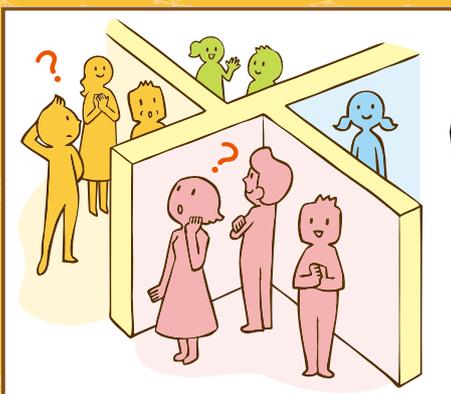
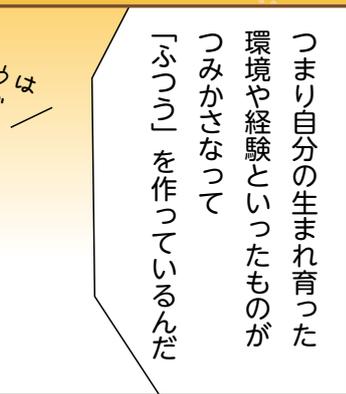
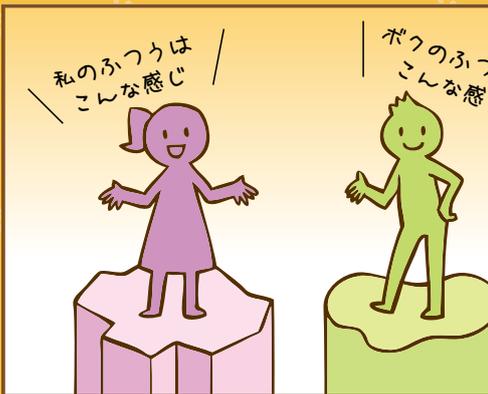
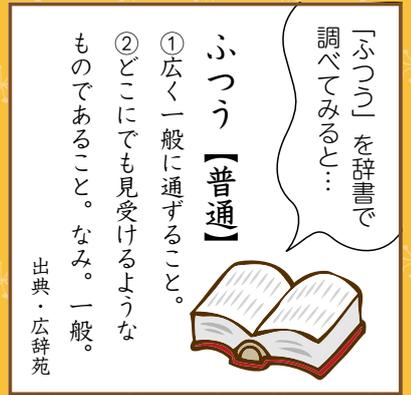
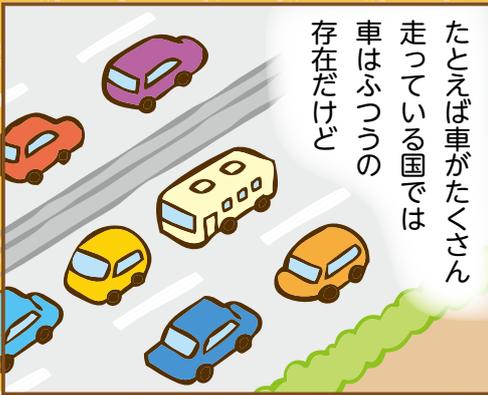
身近な福祉のお話

いろいろな ふつうを 考えてみよう。

障がいのある人の生活や仕事をよく知るために



LET'S START



それでは
障がいのある人について
勉強してみよう
障がいの原因は
次の3つにわかれて
いるんだ

- 1 先天性 (生まれた時から)
- 2 事故
- 3 病気

なんか
大変そうな
感じ……？

いろいろ
困ってる
のよね……

うまく
言えないけど……

障がいの
ある人って聞くと
みんなはどんな
イメージが
あるかな

毎日の生活や仕事で
まわりのみんなができる
ことができないため
不便なことが続いている人の
ことをいうんじゃないよ

入口に段差が
あって近所
のお店に行き
にくいなあ

行動や感情をうまく
あらわすことが
できなかったり……

障がいのある人は
3つのうちの1つ
またはいくつかが原因で
体が動かせなかったり……

知的障がい者

赤ちゃんのときの
病気や事故などが
原因で脳になんらかの
影響を受け知能の発達が
おくられている人で
学校の勉強や暮らしのなかで
特別な手助けが必要な人を
いいます

身体障がい者

先天性 (生まれたときから)
または、事故や病気などが原因で
体をうまく動かすことができず
完全に治す
ことが難しい
人で特別な
サポートが必要
な人をいいます。

身体障がい者

知的障がい者

精神障がい者

障がいのある人は大きく3つ
にわけることができます

1万人
ぐらい？

10万人
かなあ……？

みんなも考えてみよう！

※日本の人口は約1.2億人(2012年)

それではここで
問題じゃ！
日本に
障がいの
ある人は
何人いると
思う？

エー！
むずかしいなあ
あんまり
いないような……

精神障がい者

その人がもっている特徴
(ストレスなどに
対する弱さ)や
まわりの環境が
原因でおこる
脳の病気です
そこにいない人の
声が聞こえたり
何もやる気がしないという
症状があります

私たちは
「障がいがない」「ふつう」と
つい考えてしまつけど、実は
障がいはとても身近なものなんだ
障がいのある人にとって
障がいは「ふつう」のこと
レッスン1で勉強したように
おたがいの「ふつう」を
考えることがとても
大切な
ことなんだ

いっしょに
考えよう！

1000人いれば
そのうち60人は
障がいのある人
といふことになる

つまり国民の
約6% (20人に1人以上は
何らかの障がいをもっている人
といふことになる)

**答えは
全国で約744万人！**

身体障がい者
……約366万人

知的障がい者
……約55万人

精神障がい者
……約323万人

資料/平成24年版障害者白書(内閣府)

暮らす! 働く! 楽しむ!

障がいがあってもふつうに暮らせるまちづくり。
まちなかにはいろんな
福祉サービスがあります。



暮らす

グループホーム

グループホームとは、病気や障がいによって一般的な生活が難しい人たちがいっしょに生活を送る場所をいいます。料理やそうじなどの役割をみんなで行い、自立した生活を送ります。困ったときは、専門のスタッフがサポートします。



相談する

相談支援事業所

障がいのある方や、その家族の生活や支援について相談できる場所です。窓口での相談をはじめ、家庭訪問による相談なども行っています。安心して生活を送るためにどんなサポートを受ければよいかをいっしょに考えてくれます。



働く

就労継続支援A型・B型 就労移行支援事業所

障がいのある方に、はたらく場所を提供する事業所として「A型」と「B型」があります。ここで自分にできる仕事の能力をのびたりします。また、就労移行支援事業所は、就職を目的とした訓練や実習をします。



楽しむ

生活介護事業所

障がいのある方が入浴や食事などのサポートを受けたり、趣味や運動などが楽しめる場所です。地域の祭りやイベントなどにも積極的に参加して、たくさんの人ときずなを深めている事業所もあります。



障がいのある人をサポートするときに、 知っておきたいこと



身体障がい者



たとえば…

- 歩道にとめてある自転車がじゃまで、車いすで通れないことがあります。
- 電車やバスなどを使うとき、席に座れずにつらいときがあります。



こんなことで困ることがあります。

★★サポートするときは★★

まずひと声をかけて、助けが必要かどうかたずねてみましょう。一人でサポートすることが難しいときは、近くにいる人の手を借りましょう。

知的障がい者



たとえば…

- いつも使っている電車やバスが、事故や渋滞などで予定の時間に来なかったりすると困ってしまい、泣いたり怒ったりすることがあります。
- バスやタクシーの乗り降りのときに、すばやくできずに手間取ってしまうことがあります。



こんなことで困ることがあります。

★★サポートするときは★★

自分の行動の理由や自分の思いをうまく伝えられない人が多いので、相手が落ち着いたなら根気よく話を聞くことが望めます。やさしく「大丈夫」と声をかけるとよいでしょう。

精神障がい者



たとえば…

- 一人で外出するときや、新しいことを経験するときは、緊張してしまって不安を感じる人が多いです。
- 自分のことではないのに、まわりの人が自分のことを話しているように感じる場合があります。



こんなことで困ることがあります。

★★サポートするときは★★

相手が興奮しているときは、気持ちが静まるのを待ちましょう。同時にいろいろ話すと混乱してしまうので、相手にわかるようにゆっくりと話すようにしましょう。

外見から分かりにくい「見えない障がい」もあります。

聴覚障がい



聞こえの不自由な方を聴覚障がい者といいます。生まれつき聴覚に障がいのある人、事故などで後から聴覚に障がいをもった人、ある程度聞こえる人、ほとんど聞こえない人など、聞こえのレベルも一人ひとり異なります。

たとえば…

- 聞こえていないため、呼びかけられても返事ができず、不自然な態度に見えることがあります。
- 事故や災害などのとき、緊急時の詳しい情報がつかみにくいときがあります。



こんなことで困ることがあります。

発達障がい



発達障がいは脳のはたらき関係する生まれつきのもので、病気ではありません。この障がいはいくつかのタイプに分けられますが、人とスムーズに話すことが苦手ですので、「自分勝手な人」「変わった人」と誤解されることもあります。

たとえば…

- ひとつのことに集中するのが難しく、集中力が長続きしないときがあります。
- おしゃべりを自分でコントロールできないときがあります。



こんなことで困ることがあります。

視覚障がい



視覚障がいは「全盲」と「弱視」の2つに分けられます。全盲はまったく見えず、明暗を感じる事ができません。弱視は、メガネやコンタクトレンズなどをつけても両眼の視力を足して0.3以上ない人で、視覚障がいの人の約8割が弱視です。

たとえば…

- 駅や商店街など人混みの中を歩くと、人にぶつかってしまうことがあります。
- 点字ブロック(*)の上に自転車が置いてあって、危険を予測できないことがあります。



*視覚障がいの人に注意・警告をうながす道路上のプレート。通常は黄色で突起があります。

こんなことで困ることがあります。

難病・内部疾患



難病とは文字通り治すことが難しい病気をいいます。平成25年4月に法律で難病も障がいと位置づけられました。内部疾患は、心臓や呼吸機能、腎臓など体の内部に病気がある人のことです。

たとえば…

- 外見からはまったく分からないため、本当はつらいのに「なまけている」「わがまま」「やる気がない」と思われることがあります。
- 電車やバスの優先席を利用するときに、誤解を受けたり、必要なサポートを受けられないときがあります。



こんなことで困ることがあります。

私たちが暮らす社会には、
さまざまな人がいて
困っていることも
いろいろです。



みんなの「うれしい」を
考えてみよう。

人と人がおたがいに助け合って、うれしい気持ちが広がる社会を「共生社会」といいます。だれかの困っていることを知るためには、自分で見て、聞いて、いっしょに考えていくことが大切です。



共生を知る4つのキーワード

ノーマライゼーション

障がいのあることが特別なことではなく、高齢者や子ども、外国人など、さまざまな人が同じ地域で安心して暮らすことが「あたりまえの社会」をめざす考え方をいいます。あたりまえとは、その人にとって「ふつう」ということです。相手の「ふつう」をしっかり知るところがスタートラインです。

ユニバーサルデザイン(UD)

年齢や性別、能力などに関係なく、できる限り多くの人が使いたくなるように、はじめから製品や建物などをデザインする考え方をいいます。たとえば、車いすを使う人もそうでない人も使いやすいテーブル、日本人にも外国人にも分かりやすい標識など、私たちの身のまわりにはたくさんのユニバーサルデザインがあります。

バリアフリー

バリアとは「じゃまをするもの」、フリーは「取りのぞく」という意味です。たとえば、車いすを使う人の場合、段差や階段が「バリア」になって、自分では前に進むことができません。そこで、スロープやエレベーターを取り付けることでバリアフリーにします。相手に温かい気持ちでのぞむ「心のバリアフリー」という言葉もあります。

ソーシャルインクルージョン

障がいのある人や社会的に弱い立場にある人たちを社会から切りはなして考えるのではなく、社会の中でお互いが支え合い、助け合い、生きがいをもって生活できるような社会にしていこうという考え方です。障がいのある人を「障がい者だから(きっと)できない」と決めつけるのではなく、たくさんの「できること」の中から自分にぴったりのものを選ぶような社会のことです。

ボランティアのすすめ

自分の暮らす地域にはどんな人がいて、どんなことで困っているのか…、それを知る方法のひとつが「ボランティア」です。お父さんやお母さん、先生や友だちとはちがう人たちといっしょに活動してみることで、新しい発見がきっとあるはず。できることからトライしてみよう！

